



生きよう今日も喜んで

— 平澤 興先生に学ぶ —

徳真会創業の地新潟では、シベリアから白鳥が飛来する季節となりました。

人間の人生が長い人でせいぜい百年程だとしたとして、人の生年をはるかに超えて、鳥たちの毎年の営みは永々と続いているのを考えると、有限の人生をどう生ききるかを真剣に考えなければと思ったりします。

徳真会の創業の地は新潟県旧新津市ですが、その近隣の村である味方村(現新潟市)出身で、京大の総長をされた平澤 興先生がおられます。(平成元年 88 歳で逝去)今は地元の人でも平澤先生の事を知らない人も多くなってきている様ですが、平澤先生は、専門の脳神経解剖学の分野で世界的な実績を残された方でもあります。

京大総長を退任の後も、専門分野を越えてあらゆる分野に多大な影響を与えた方でもありました。

その先生の代表的著書に「山はむらさき」そして語録集に「生きよう今日も喜んで」があります。

「山はむらさき」は初版が 1976 年(昭和 51 年)に発刊されたもので、平澤先生の少年時代から晩年までの自伝的回顧録を簡易に書かれたものです。

先生が生まれられたのは、1900 年(明治 33 年)で 17 歳で京都の中学校へ行かれるまでの内容を読んでいると、当時の越後の農村の風景と生活が描かれていて日本人の原風景を思い出し、当時へタイムスリップする気がします。

いずれにしても、平澤先生が生きてこられた明治、大正、昭和の時代は時代の変化が今よりは緩やかであったとはいえ激動の時代であった事は確かです。そうした時代の中で「人生の覚者」として人生を全うされた平澤先生のような人物は稀有のものになりつつある現在、我々はこうした偉大な先人に学ぶ機会をもっと持たなければと強く思います。

平澤先生の語録集「生きよう今日も喜んで」の中から私が好きな言葉をいくつか紹介しておきます。

- ・情熱は年齢ではなく、燃ゆる心の力である
情熱は喜びであり、希望があれば人は疲れない
- ・かしこい人は燃えることができない
燃えるためには愚かさがいる
愚かさには力がある
- ・自ら燃える人は人を燃やす力がある
思い切って遠慮せずに人々に情熱を与えなさい
- ・情熱と独創と実行がなければ、仕事をしているとは言えない
情熱とは、仕事に対する興味と希望と喜びをもって全力的にぶつかるものである
- ・人生に望ましいのは失敗や困難がないということではなく、決してそれに負けないということである
- ・ほんとうの大物は、よい意味でどこか足らぬところがある
それがまた魅力であり風格である
- ・年をとってあまりかしこそうでは一人前ではない
相手にも自分にも緊張を与えるようではまだまだで窮屈である
- ・有名になることはそれ程むづかしいことではない
しかし、本物になることはむづかしい
- ・七十五、六歳から八十五、六歳までが一番伸びる時だ
- ・九十歳まで生きないと本当の人生は分らない

こうした短い言葉の中に、人生の深い蘊を感じとれる至言の数々だと思います。

今年も越後の冬を迎える頃、今は亡き平澤先生の遺訓を読み直してみたいと思います。

徳真会グループ
代表 松村 博史